

お う ぼ て び
応募の手引き

てい がく ねん よう
低学年用
1年生～3年生

か
書きあがったら…

できた！できた！と、よろこぶのはまだ早い。書きっぱなしはダメだよ。
つぎ 次のことに注意して、もう一度読み直してみよう！

- ① 字数は800字をこえていないかな？
- ② 字のまちがいはない？
- ③ 「です・ます」と「である・だ」が、まざってない？
もし、まざっていたら、どちらかにそろえよう。
- ④ 文章が長すぎたり、つながりがおかしいところはないかな？
- ⑤ 原稿用紙の使い方は正しいかな？



にゅうしょう め ぎ
入賞を目指して、

さあ！自信をもって応募しましょう！

しめきり
10/1 火
当日消印有効

お家の
方へ

この応募の手引きは、お子様に『住みよい地球』全国小学生作文コンクールにご応募いただくための参考資料です。お子様が夏休みの課題として取り組まれる際、この手引きを参考にお家の方からもアドバイスをお願いします。作文が完成しましたら、ご担当の先生に提出してください。直接事務局にお送りいただくことも可能です。

「募集要項」は下記からダウンロードできます。

主 催：岩谷産業株式会社 <http://www.iwatani.co.jp/jpn/kids/sakubun/index.html>
事 務 局：プラスエム URL：<http://plus-m.co.jp>



応募・問合せ先：「住みよい地球」全国小学生作文コンクール事務局（プラスエム）
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-17-6 群成舎八丁堀ビル 6 階

Eメール：sakubun@plus-m.co.jp
電 話：03-5541-7080

さあ、まずテーマを決めましょう！

『住みよい地球』ってなんでしょう？たとえば「環境を大事にすることや、エネルギーをむだにしないこと、動物や植物を大事にすること、家族や地域の人になかよくすること、外国の文化を知ること、日本の文化を外国人に知ってもらうこと」などもふくまれます。わたしたちにとつてくらしやすい地球とはどのようなところなのかを考えて、自分のテーマを見つけてください。

さんこう
参考テーマ例

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| • 大切なエネルギーをじょうずに使うためにわたしたちにできること | • 環境にやさしいエネルギーって何だろう？ |
| • 住みよい地球を守るためにわたしたちができること | • 環境にやさしいわたしの心がけ |
| • 大すきな自然、大すきな生きもの | • 学校のまわり、わたしたちの町や地域を歩いて発見したこと |
| • 助け合うことの大切さを考えよう | • 外国の人たちと広げよう友だちの輪 |

ヒント

エネルギーのことをテーマに作文を書く場合、例えば…環境にやさしい自然エネルギーってどんなものか、お家の人に聞いてみましょう。お家に人に教えてもらったことにあなたの意見や感じたことを入れて作文にするのです。

また、環境をテーマにする場合には、例えば…テレビをつけっぱなしにしない、部屋の電気をこまめに消す、冷蔵庫を開けたらできるだけ早くドアを閉めることも環境にやさしい生活につながります。自分でやってみてそれを作文にしましょう。

ご指導の
先生方へ

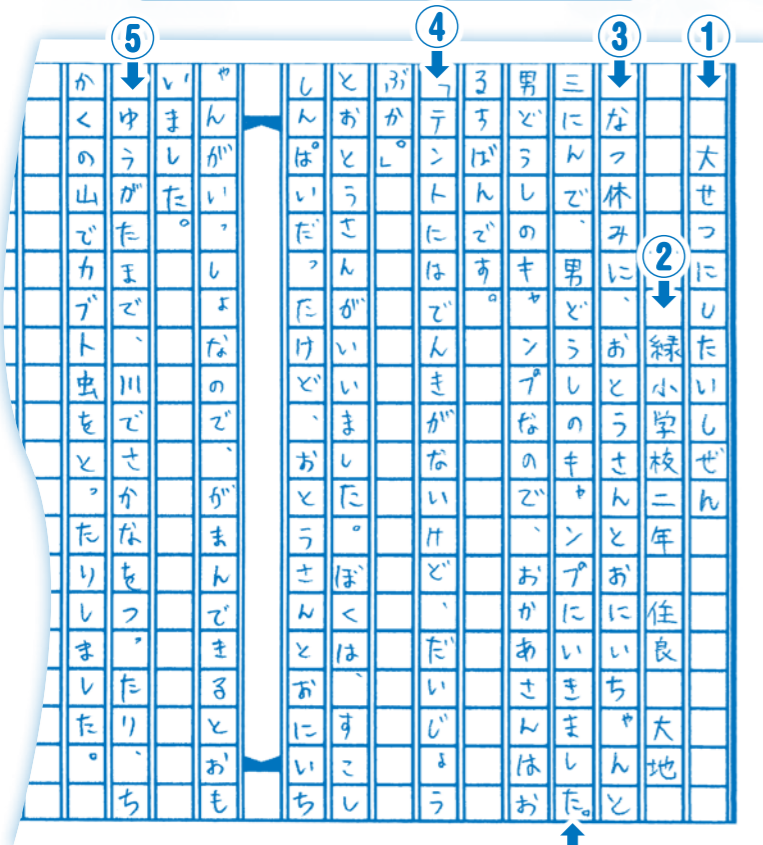
大変お手数ですが、必要部数をコピーの上配布してください。

応募の手引きは、貴校の児童のみなさまに「住みよい地球」全国小学生作文コンクールにご応募いただくための参考資料です。配布の際、先生からわかりやすくご説明いただければ幸いです。

作文を書き始める前に

原稿用紙に作文を書く場合、書き方の決まりがあります。例えば次のように書くといいよ。

原稿用紙の書き方の基本



※、や。は行の始めに書くことはできません。最後のマス目に文章といっしょに書きます。

① 題名の書き方

原稿用紙の1行目に題名を書きますが、上から2～3マスはあけます。

② 学校名・学年・名前の書き方

名前は2行目に書きます。学年と名前の間は1マスあけます。学年や名前は行の上から書くのではなく下が1マスあくように書きましょう。

③ 作文の書きはじめは3行目から

作文は3行目から書きはじめましょう。このとき、1マス目はあけてください。

④ 「」、。?! は1マスを使います。

⑤ 行をかえるときは段落をつける

前の文章とちがう話になるとき、改行(行をかえること)します。このとき、必ず段落をつけるので1マス目をあけてから続きを書きはじめましょう。



作文の書き方のコツ

書きはじめ

作文の書きはじめは、「何だ?」「おもしろそう」と思ってもらえるようなくふうをしてみましょう。

- ・場面：げんかんを出たら朝日でまぶしかった。
- ・会話：「どうしてわすれたの?」
- ・音や色：「ガサガサ」とつぜん、ぼくのうしろで何かが動いた。

だらだら書かない

「〇〇しました。次に〇〇をしました。そして〇〇をしました。」というように、あったことをただ書くのはやめましょう。何を一番伝えたいかを考えて、そのことをくわしく書くようにしましょう。

感じたことを文章中に入れる

あなたの目を見たこと、耳で聞いたこと、さわったこと、におい、味など、あなたが感じたことを文章の中に入れてみましょう。実感がこもって文章がいきいきとしてきます。

書きおわり

作文の書きおわりは、むずかしいもの。読んだあとにより印象が残るようなおわり方をくふうしたいですね。

- ・場面：だれもいなくなった教室にわたしだけがのこっていた。
- ・セリフ：「みんな、よくやってくれたね」
- ・まとめ：～ということから、わたしは～だと思いました。

審査の先生からのアドバイス

◆1字1字ていねいに書こう

1字1字ていねいに書いてくれた作品は、読む側としてもいっしょうけんめい読みたくなります。もう一度ていねいに書き直してみるといいですね。

◆おうちの人に相談した場合にも自分で仕上げよう

何を書こうかおうちの人に相談した場合にも、実際に書くのは自分です。自分で仕上げることが大切です。

◆ほかの人にわかるように書こう

自分だけわかったつもりにならないように、おうちの人の前で読んで聞いてもらうのもいいですね。

◆自分はどう思うのか、自分の考えを書こう

インターネットで調べたことを写しただけでは作文にはなりません。調べたことや体験したことから何がわかって、自分はどうか感じたのか書きましょう。

二知識 住みよい地球を守るためにわたしたちができること

テレビをつけっぱなしにしない、部屋の電気をこまめに消すなど、すでに実行している人も多いでしょう。ほかに、なるべくゴミを出さないように、モノを大切に使う、料理を残さず食べることも、環境にやさしい行動です。これらのちょっとした努力が、住みよい地球を守ることに繋がります。

毎日のくらしの中で、あなたやお家の人と取り組んでいることを作文にして、ほかの人にも伝えましょう。

